

令和3年度(令和2年度事業対象)

**御殿場市教育委員会**  
**自己点検・評価報告書**

令和2年8月

御殿場市教育委員会

# 目次

はじめに	1
◆点検・評価の方法	2
1. 点検・評価の対象	
2. 点検・評価方法について	
3. 学識経験を有する知見の活用	
◆御殿場市教育委員会自己点検・評価シート(令和2年度分)	3
1. 【大項目1】 教育委員会の活動	3
2. 【大項目2】 教育委員会が管理・執行する事務	6
3. 【大項目3】 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	10
『重点施策 第1 人を育む環境の充実』	10
『重点施策 第2 生涯学習と地域活動の推進』	22
『重点施策 第3 芸術・文化活動機会の振興』	26
『重点施策 第4 歴史と文化の継承』	30
『重点施策 第5 多文化共生と国際交流の推進』	34
4. その他の事業	36
◆「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」からの質疑・意見等	37
◆点検評価の総括	41

## はじめに

平成19年6月に教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実のため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正されました。この改正の一環として、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。

そこで、令和2年度の教育委員会の活動や教育施策について、本年度も自己点検・評価を行い、その結果を取りまとめましたので、ご一読の上、ご意見をお寄せいただければ幸いと存じます。

御殿場市教育委員会では、未来を担う児童生徒を社会総がかりで育成するために、「御殿場市教育大綱」、「御殿場市教育振興基本計画」、「御殿場市子ども条例」をはじめとして、様々な教育施策の基本方針及び重点施策を定め、幅広い事業を展開しております。幼・保・こ・小・中の一貫教育、幼児期から学童期への滑らかなる接続等、縦の接続と横の連携を組織化し、学校・家庭・地域社会がそれぞれの機能と役割を効果的に発揮できるように教育施策を進めております。

これからも、教育行政を行う者の責任の重大さを深く認識し、本市の教育行政が時代に即し、公正かつ適正に行われるよう努めてまいります。

令和3年8月

御殿場市教育委員会教育長 勝 亦 重 夫

〈参 考〉 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## ◆点検・評価の方法

### 1. 点検・評価の対象

点検・評価の対象は、以下の3区分とし、令和2年度に教育委員会が実施した事務事業について点検・評価を実施した。

#### 大項目1 教育委員会の活動

教育委員会の会議の運営改善や公開、保護者や地域住民への情報発信など6項目についてその実施状況の点検・評価を行った。

#### 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

教育行政の運営に関する基本方針、教育機関の設置や廃止、財産の管理、条例や規則等の制定改廃等、教育委員会の職務権限に属するものの実施状況の点検・評価を行った。

#### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

教育行政の運営に関する基本方針である5つの重点施策の下に位置付けられた主要施策について、その施策ごとに点検・評価を行った。

#### その他の事業

御殿場市子ども条例行動計画に基づく活動等について点検・評価を行った。

### 2. 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、事業の進捗状況を総括し、その達成度を自己評価するとともに、課題や今後の方向性について検討している。

判定は、**A:達成している** **B:概ね達成している** **C:達成していない** **D全く達成できていない**の4段階で評価を行った。

達成度の評価は、客観性を確保し、数値に基づいた評価をするために、それぞれの施策を構成する主要事業毎に、可能な限り指標や目標値など数値設定を行っている。

今後の方向性は、**拡大**、**継続**、**見直し**、**縮小**、**停止**、**廃止**、**完了**の7項目で示している。

なお、教育委員会が管理・執行する事務については、法定事務であるため達成度や今後の方向性を判定せず、件数のみ表示している。

### 3. 知識経験を有する知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、教育委員会の自己評価結果について、「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」を開催し、次の方々から意見・助言をいただいた。

皆 川 達 哉 御殿場市PTA連合会の代表

菊 池 いづみ 知識と経験を有する者(元・社会教育委員長)

芹 澤 智 子 知識と経験を有する者(前・文化協会副会長)

# ◆ 御殿場市教育委員会自己点検・評価シート（令和2年度分）

〈判定〉

**達成度**    A達成している    B概ね達成している    C達成していない    D全く達成できていない

**今後の方向性**    拡大    継続    見直し    縮小    停止    廃止    完了

## 大項目1 教育委員会の活動

### 中項目（1） 教育委員会の会議の運営改善

■小項目① 教育委員会会議の開催回数

■達成度 A

■今後の方向性 継続

#### 【状況、課題、今後の対応】

定例会12回、臨時会2回、協議会を12回開催した。各委員から活発な意見・発言・提言があった。

■小項目② 教育委員会会議の運営上の工夫

■達成度 B

■今後の方向性 継続

#### 【状況、課題、今後の対応】

会議の開催日や開催時間等について、1年間のスケジュールをホームページで公開するとともに、開催日当日には同報無線で周知するなど、傍聴しやすい環境を確保した。

今後は、教育委員が教育現場の状況を確認できる機会を確保するため、定例教育委員会を学校で開催する等を検討していく。

## 中項目（２） 教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信

- 小項目① 教育委員会の会議・会議録の公開状況
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

定例教育委員会は、開催日等を公表するとともに、会議を公開で行っている。  
開かれた教育委員会を目指すべく、1年間の委員会開催日をホームページで公開するとともに、会議録についても、ホームページ上で公開した。  
今後は、引き続き会議に関する周知に努めるとともに、より読みやすい会議録となるようレイアウト等を研究していく。

- 小項目② 広報、広聴活動の状況
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

御殿場市教育施策、重点施策、事業内容等をホームページ上に掲載した。  
無線通報で委員会開催の前日夜と当日朝に放送した。  
今後は、ホームページの掲載内容等を検証し、より伝わりやすい各種施策の情報発信を目指していく。

## 中項目（３） 教育委員会と事務局の連携

- 小項目① 教育委員会と事務局の連携
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

新型コロナウイルスの影響で直接的な交流が難しかったものの、教育委員会や総合教育会議以外の場でも、事務局と各委員の情報交換に努め、必要な場合は説明等を行うなどにより連携を図った。  
相互の連絡が密になるように努めるとともに、事務局や関係部署からも様々な情報の提供がなされている。

## 中項目（４） 教育委員会と首長との連携

- 小項目① 教育委員会と首長との意見交換会の実施
- 達成度 A
- 今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

市長と教育委員の意見交換の場として、総合教育会議を8月と11月の2回開催した。  
当該会議では、教員の多忙化、教育大綱、次年度予算等を議題とした。  
総合教育会議は、市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進するために設置される法定会議であることから、引き続き実りある意見交換を実施していく。

## 中項目（５） 教育委員の自己研鑽

■小項目① 研修会への参加状況

■達成度 C

■今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

新型コロナウイルスの影響で、研修会が軒並み中止となったことにより、予定していた研修に参加すること自体がほとんどできない状態にあった。

最近では、オンラインによる研修会も開催されるようになってきたので、可能な限り参加し、自己研鑽に努めていく。

■小項目② 自主的な活動状況

■達成度 C

■今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されたため、行事等の参加や教職員との交流・意見交換を行うことができなかった。

今後は、徐々にであっても学校行事に参加できるよう、感染症予防対策を徹底した上で、状況を見極めて参加していきたい。

## 中項目（６） 学校及び教育施設に対する支援・条件整備

■小項目① 学校訪問

■達成度 C

■今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

新型コロナウイルスの影響により、各委員による幼稚園、小・中学校の訪問は自粛した。

今後は、感染症の状況や社会情勢を見極めながら、学校訪問に努めていく。

■小項目② 所管施設の訪問等

■達成度 C

■今後の方向性 継続

### 【状況、課題、今後の対応】

新型コロナウイルスの影響により、各委員による教育・文化施設の訪問は自粛した。

今後は、感染症の状況や社会情勢を見極めながら、所管施設の訪問に努めていく。

## 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

### 中項目(1) 教育行政の基本方針を定めること

R2 1件 R1 1件

#### 【点検・評価・内容】

令和2年4月定例会において、令和2年度御殿場市教育施策を決定した。

### 中項目(2) 学校その他の教育機関の設置及び廃止を決定すること

R2 0件 R1 1件

#### 【点検・評価・内容】

令和元年度は、神山幼稚園の閉園があったが、令和2年度は該当がなかった。

### 中項目(3) 重要な教育財産の取得及び処分を市長に申し出ること

R2 0件 R1 1件

#### 【点検・評価・内容】

令和元年度は、神山幼稚園の財産処分があったが、令和2年度は該当がなかった。

### 中項目(4) 県費負担教職員である校長、教頭の任免その他の進退及び 県費負担教職員の懲戒について県教育委員会に内申すること

R2 1件 R1 2件

#### 【点検・評価・内容】

令和3年3月臨時会において、県費負担教職員の人事異動について承認した。

### 中項目(5) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること

R2 1件 R1 0件

#### 【点検・評価・内容】

令和2年度に時間外の上限に関する方針を定めた。

中項目（6） （4）、（5）に定めるもののほか、  
人事の一般方針を定め、及び懲戒を行うこと

R 2 0件 R 1 0件

【点検・評価・内容】

令和2年度は事案がなかった。

中項目（7） 部長、次長及び課長並びに県費負担教職員以外の  
学校その他の教育機関の長の任免を行うこと

R 2 1件 R 1 2件

【点検・評価・内容】

令和3年3月臨時会において、教育委員会的人事案について承認した。（令和3年4月1日付人事異動）

中項目（8） 学校その他の教育機関の敷地を選定すること

R 2 0件 R 1 0件

【点検・評価・内容】

令和2年度は事案がなかった。

中項目（9） 教育委員会規則及び規程等の制定又は改廃を行うこと

R 2 10件 R 1 12件

【点検・評価・内容】

御殿場市富士山市民のサロン条例の制定の他、条例1件、規則6件、要綱1件、規程1件の制定及び改正を行った。

中項目（10） 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、  
市長に意見を申し出ること

R 2 3件 R 1 3件

【点検・評価・内容】

令和元年度決算…8月定例会で承認  
令和2年度補正予算(第8号)…8月定例会で承認  
R3年度予算…2月定例会で承認

### 中項目（11） 教育委員会に属する附属機関の委員を任命し、委嘱すること

R2 97人

R1 143人

#### 【点検・評価・内容】

令和2年4月から6月までに開催した定例教育委員会で、学校設置審議会委員13名の委嘱を承認した他、12の附属機関の委員合計84人の任命又は委嘱について承認を行った。

### 中項目（12） 学齢児童、生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること

R2 1件

R1 0件

#### 【点検・評価・内容】

原里小学校に特別支援学級（自閉症・情緒学級）を新設することに伴い、通学区域の変更を行った。

### 中項目（13） 市指定文化財の指定又は解除を行うこと

R2 1件

R1 0件

#### 【点検・評価・内容】

令和3年3月24日に阿部雲気流博物館資料を御殿場市指定文化財に指定した。

### 中項目（14） 教育委員会表彰を行うこと

R2 0人

R1 0人

#### 【点検・評価・内容】

令和2年度は事案がなかった。

※ 感謝状贈呈 10人

学校医・歯科医・薬剤師 合計 5人 地域づくり活動主事 3人 PTA連合会長 1人 文化財審議会委員 1人

### 中項目（15） 教科用図書の採択を行うこと

R 2 1 件 R 1 1 件

#### 【点検・評価・内容】

令和2年度は、中学校教科用図書について1件の事案があった。

### 中項目（16） 就学援助の認定を行うこと

R 2 4 2 5 件 R 1 4 2 5 件

#### 【点検・評価・内容】

427人の申請があり、425人の児童・生徒を認定した。定例教育委員会での認定の付議回数9回。

### 中項目（17） 御殿場市公文書公開条例第7条に規定する 不服申立てがあった場合の手続に関すること

R 2 0 件 R 1 0 件

#### 【点検・評価・内容】

令和2年度は事案がなかった。

### 中項目（18） 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

R 2 1 件 R 1 1 件

#### 【点検・評価・内容】

令和2年度に実施した教育委員会の事業について、教育委員会の活動、教育委員会が管理・執行する事務、教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務の3つに区分し、点検評価を実施した。

# 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

## 重点施策 第1 人を育む環境の充実

■主要施策（1） 乳幼児期における教育の充実

■達成度 B

■今後の方向性 継続

### 【実施内容】

幼児期における家庭教育の重要性に鑑み、楽しい子育て教室を開催した。  
 幼稚園指導員が定期的に巡回訪問し、現場のニーズに応じて的確な指導や助言を行った。  
 小学校教育への滑らかな接続を図るため、アプローチ・スタートカリキュラムの指定研究を指定園、指定校で継続した。  
 幼稚園現場の状況を鑑み、現状に即した補助教諭の配置を行った。

### 【結果・成果】

幼稚園指導員の巡回により、園の課題発見や解決、園児への個別対応、保護者からの相談対応等に貢献した。  
 子育て教室では親の在り方やしつけの方法を学んだ。また、託児には保育ボランティアの協力を得た。  
 ブックスタート事業は乳児検診と並行して実施しているため、配布実績は良好である。

### 【課題】

年間を通じて幼稚園教諭を募集しているが申込みが少なく確保が難しい状況である。  
 適切な就園支援や、円滑な集団保育の推進等、幼児教育全般の充実を図るため、幼稚園・保育所等の関係機関の連携が不可欠である。

### 【今後の対応】

今後も継続して補助教諭の適正な配置に努める。  
 アプローチ・スタートカリキュラムの指定研究を1年延長し、今後市内の他園、他校にも広げていく。  
 ブックスタート事業は今後も継続。おはなしの会は企画・PRを強化して誘客に努める。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 幼稚園教育充実のための支援		3歳児補助教諭の人数(人) ※20人以上の3歳児クラスに対して1名配置。R2は原里・玉穂・富士岡で計3クラス。	3人	3人
		障害時補助教諭の人数(人)	27人	
		各種研修の実施・参加の有無	有	有
		教育論文への幼稚園教諭の参加人数(人)	4人	
2 幼稚園指導員の配置による幼児教育の充実		指導員による指導を保育の質の向上や支援の必要な子どもへの対応の仕方に生かしている幼稚園数(園)	7園	7園
3 乳幼児期の豊かな育ちの支援	4204-010 子ども読書活動推進事業	子育て教室開催回数(回) 子育て教室参加人数(組)	8回/13組	10回/20組(R2)
		ブックスタート事業参加人数(人)	634人	650人(R2)
		親子おはなしの会参加人数(人)	215人	450人(R2)

■主要施策（２） 人間力と社会力を核とした教育の充実

【1】豊かな感性を育む教育

■達成度

B

■今後の方向性

継続

【実施内容】

各中学校区ごとの連携・一貫教育の取り組みとして、「あいさつ+『ありがとう』活動の展開」を全校で継続している。

幼児教育と義務教育の円滑な接続を目指したアプローチ・スタートカリキュラムの市指定研究を指定校、指定園で継続した。

特別支援学級補助者を増員し、支援を要する児童生徒への対応を強化した。

臨時休校後の学校再開にあたり、児童生徒が安心安全な学校生活を送れるよう、関係機関と連携し、子どもの状況把握に努めた。

【結果・成果】

特別支援巡回指導員や各種補助者等の配置により、支援を要する児童生徒への個別の指導や対応が可能となっている。

【課題】

一人ひとりの個性に応じた支援の充実や、郷土に誇りを持ち、豊かな心を育むことができるよう、心の教育副読本「ふじさんのように」の活用を図りながら、道徳教育を推進していく。

【今後の対応】

アプローチ・スタートカリキュラムの指定研究を一年延長し、研究を重ね、今後市内の学校全体に伝えていく。

関係機関と連携し、いじめの未然防止、早期発見等に向けた体制整備を強化していく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 社会性とモラルを育む教育活動の充実		児童生徒の認識度 近所の人に挨拶したり、困っている人に手助けをしようとする児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	91%	95%
2 学校等の連携・一貫教育の実施		児童生徒の実践度 あいさつ+「ありがとう」を学級の仲間や家庭や地域の方々に言える児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	96%	97%
		市指定研究アプローチ・スタートカリキュラムの実施(校)	1校	1校
3 各補助者等による支援事業の充実	4102-010 発達障害児支援事業 4102-020 特別支援教育推進事業	教職員の意識度 市単の補助者や支援員の配置は効果があると答える教職員数÷全教職員数×100	93%	95%
4 個々のニーズに応じた教育支援体制の整備	4102-010 発達障害児支援事業 4102-020 特別支援教育推進事業	特別支援コーディネーターの充実度 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育体制が有効に機能していると答える教職員数÷全教職員数×100	84%	95%
		教職員の充実度 個別の支援指導計画に基づく指導が行われていると考える教職員数÷全教職員数×100	88%	90%
5 いじめの未然防止・早期発見等に向けた対応の充実		いじめ問題対策連絡協議会会議実施回数(回)	3回	3回
		いじめ認知件数(件)	182件	

■主要施策（２） 人間力と社会力を核とした教育の充実

【２】確かな知性を育む教育

■達成度 B

■今後の方向性 拡大

【実施内容】

学習支援ソフト(eライブラリアドバンス)の利活用を促進するとともに、児童生徒1人1台タブレット端末の整備に伴い、教職員が積極的にタブレット端末を活用できるよう、研修会を実施した。  
地域教材「ふるさとごてんば」「ふじさんのように」を活用した環境教育や道徳教育などを推進した。  
小中学校において新たにプログラミングに関する授業が必須となった。

【結果・成果】

ICT環境が急速に整備され、児童生徒1人1台タブレット端末の導入により、学習活動の幅が広がった。

【課題】

タブレット端末管理等に伴う教職員の負担軽減のための支援の必要性が生じている。  
市が掲げる「エコガーデンシティ構想」や「ゼロカーボンシティ」の取組を身近に感じながら、またSDGsの取組の一環として、地域に根ざした環境教育が求められる。

【今後の対応】

ICT機器の運用面や活用面に関して、学校ごとに差が生じないよう、共通理解を図りながら進めていくとともに、児童生徒一人ひとりに個別最適化された教育環境の実現を目指す。併せて、情報モラル教育や家庭への啓発等を実施していく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 情報教育の推進		タブレット端末の教職員向け操作研修実施学校数(校)	10校	
2 地域に根ざした環境教育の推進		環境問題を授業で取り上げている学校数(校)	16校	16校
3 全国学力・学習状況調査の活用		学力向上委員会の結果を校内研修や日々の授業改善に生かしている学校数(校)		
4 プログラミング教育の推進		プログラミング授業の実施学校数(校)	16校	16校

■主要施策（２） 人間力と社会力を核とした教育の充実

【３】健やかな心身を育む教育

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

学校専門相談医への相談を通じ、児童生徒の健康面・精神面に関する指導・助言をいただいた。また、校長会や学校保健部を通じて制度の周知を図り、小山町と合同で学校専門相談医制度合同研修会を開催した。学校における感染症対策の基本となる「新型コロナ危機管理マニュアル」を作成し、対策の徹底に努めた。コロナ禍により、親子調理実習や試食会を実施出来なかった。

【結果・成果】

学校専門相談医制度の活用により、各学校の養護教諭の現場における対応力が向上している。新しい生活様式による感染症対策の取り組みが浸透し、例年流行するインフルエンザ等の疾病予防につながった。

【課題】

養護教諭以外の教職員にも、継続して学校専門相談医制度の周知を図っていく。コロナ禍においては、運動や食育の活動にも制約が生じるが、内容や実施方法の工夫が求められる。

【今後の対応】

例年開催している学校専門医制度合同研修会を通じて、学校における制度周知と活用を推進していく。感染症対策の徹底と併せ、学校における危機管理対応を強化し、災害等に備え、命を守るための防災教育を推進していく。子どもたちへの指導や試食会、親子調理実習を通じて更なる給食への関心や残食減少に努めていく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 子どもたちの心身の健康を支える保健室経営と学校専門相談医の活用		教職員の認識度 学校専門相談医制度の概要を理解していると答える教職員数 ÷ 全教職員数 × 100	69%	80%
		学校専門相談医制度研修会等の実施	実施	実施
2 運動習慣の定着		体育の授業以外に運動を取り入れている学校数(校)	16校	16校
		屋内運動場・グラウンド・遊具等の修繕対応件数(件)	13件	
3 食育の充実		試食会の開催数、親子調理実習の開催数、学校訪問・食に関する指導回数	0回 0回 0回	0回 0回 0回
		食育を授業に取り入れている学校数(校)	16校	16校

■主要施策（3） キャリア教育の充実

■達成度 B

■今後の方向性 継続

### 【実施内容】

児童生徒一人ひとりが様々な職業の可能性を考え、将来の展望や人間力を育むための事業として、キャリアパスポートの活用、夢創造事業や中学生の職場体験等を実施した。

### 【結果・成果】

児童生徒が様々な職業や技能、文化・芸能等に触れることで、将来への展望やイメージを考える機会を提供できた。

### 【課題】

社会のルールやマナーを学ぶとともに、自己理解を深めながら、学校での学習や活動に意欲的に取り組めるよう、事業を展開する。

### 【今後の対応】

子どもが実際に働くことの大変さや喜びを実感したり、将来の夢や志を育み、実現に向け、前向きに取り組んでいく姿勢を養うための機会として、今後も事業を推進していく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 職場体験を通じた社会人・職業人としての「生きる力」の育成		職場体験を実施している中学校数(校)	6校	6校
2 夢とあこがれを育てる夢創造事業の実施		児童生徒の意識度 夢創造事業を良かったと答えている児童生徒の数÷抽出全児童生徒数×100	91%	100%

■主要施策（４） 開かれた学校・魅力ある学校づくりの推進

■達成度 B

■今後の方向性 拡大

【実施内容】

市立幼稚園、小・中学校では、自己評価・学校関係者評価を実施し、また、各中学校区で研究主題を設定し、連携・一貫教育に取り組んでいる。

学習環境整備のため、児童生徒や保護者の相談体制の充実を図るとともに、就学援助制度等の経済的支援を実施した。

コミュニティ・スクールの導入に向け、中学校1校にCSディレクターを配置し、取組を開始した。

【結果・成果】

アンケートの実施や学校評議員制度をはじめ、保護者・地域の方々による学校評価が定着しており、教育活動や教育課程の改善に生かしている。

各校が目標を設定し、日々の生活や学習を基盤とした取組が成果を上げている。

【課題】

子どもの豊かな成長や、家庭・学校が抱える課題の解決のためには、地域を含めた社会総がかりでの取組が不可欠である。

【今後の対応】

開かれた学校づくりを推進するため、コミュニティ・スクールの導入を各中学校区ごとに推進していく。

就学援助制度については、引き続き制度の周知に努める。また、支援が行き渡るように認定要領等の内容検討を行う予定である。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 教育課程の改善を目指した自己評価・学校関係者評価の実施		教職員の認識度 自己評価や学校関係者評価が教育課程の改善につながっていると答える教職員数÷全教員数×100	96%	100%
2 中学校区ごとの育ちの目標の共有化と目標実現のための取組の実施		教職員の意識度 幼保小中のつながりを意識した授業を行っているという答える教職員数÷全教職員数×100	89%	100%
3 教育相談体制の充実		児童生徒の実感度 教育相談員に相談してよかったと答える児童生徒の数÷対象児童生徒数×100	80%	100%
4 就学援助制度等の推進		定例教育委員会での就学援助審議回数／定例教育委員会開催回数(回)	10回	/
		就学援助認定数／就学援助申請数(人)	425/426	
		育英奨学金認定数／育英奨学金申請数(件)	6/9件 (66.7%)	
5 コミュニティスクールの推進		御殿場型コミュニティ・スクールの導入に向けた取組(CSディレクターの配置)	1校	1校

■主要施策（5） 教職員・指導者の人材確保・育成

■達成度 B

■今後の方向性 継続

### 【実施内容】

教育指導センター教育指導員による訪問指導、教師力向上講座「架け橋」などを実施した。  
教育研究として、アプローチ・スタートカリキュラム、学力向上、コミュニティ・スクール、ICT活用の4つの研究指定校による研究を推進した。  
また指導主事が担当校の研修に参加するなど、教育委員会が校内研修の現状を把握し、支援にあたった。

### 【結果・成果】

コロナ禍により中止となった研修等も生じたが、休校期間に実施可能なものは実施し、授業再開に備え、教職員同士が工夫しながら学習方法を伝授し合い、協力体制やきずなが深まった。  
国による学習支援員の配置や、スクールサポートスタッフの増員等に迅速に対応し、人材確保に努めた。

### 【課題】

若手教職員の割合が増加しており、個々の課題を明確にしなが、効果的な指導・支援に努めていく必要がある。  
また、ミドルリーダーとしての活躍が期待される40代の教員の育成が喫緊の課題である。

### 【今後の対応】

研究指定校を核とした研究を推進するとともに、教職員の資質向上を目指し、キャリアに応じた研修の充実を図る。  
教育指導センターの機能を充実させ、効果的な指導を実施していくことで、様々な課題に対応できる教職員の育成を図る。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 御殿場市教育フォーラム等の 各種研修会の実施		教育フォーラム、教師力向上講座 等の研修会の実施	一部実施	実施
2 市指定研究校による研究推 進・自主発表会の開催		教育研究指定校数(校)	4校	4校
3 教育指導センターの円滑な運 営		教職員の充実度 教育指導員に よる指導が教師力向上に役立っ たとする教職員数÷対象教職員 数×100	100%	100%
4 指導主事の指導・支援による 校内研修の活性化		教職員の意識度 校内や市内の 研修が自らの授業力の向上に役 立っていると答える教職員数÷全 教職員×100	97%	100%

■主要施策（6） 学校などの教育施設・設備の推進

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

校舎改築事業、環境整備事業については、施設整備計画に基づき計画的に実施した。

新型コロナウイルスの影響による国のGIGAスクール構想関連補助金の前倒しに伴い、御殿場市立小中学校の児童生徒一人一人タブレット端末を整備したほか、タブレット端末を格納する充電保管庫やタブレットの画面を表示する大型提示装置（ディスプレイ等）を整備した。

【結果・成果】

校舎改築事業については、西中学校の旧管理普通教室棟の解体が完了し、屋内運動場の設計に着手した。

環境整備事業については、朝日小学校及び南中学校校舎の大規模改修の工事が完了し、御殿場小学校の1号棟校舎の大規模改修の設計に着手した。

国のGIGAスクール構想に基づき、一人一台タブレット端末の整備など、教育のICT化に関する整備を大幅に進めることができた。

【課題】

施設・設備の老朽化、時代のニーズに合った機能・環境改善のための改修が急務である。

教育の情報化については、新型コロナウイルスの影響により、急遽ハード面でのICT環境整備が大幅に進展した経緯があることから、次の段階として、ICT機器の効果的な活用に重点をシフトしていく必要がある。

【今後の対応】

施設整備計画に基づき、校舎改築事業、環境整備事業を計画的に推進していく。

教育の情報化については、引き続き現在のICT環境を維持していくとともに、学校の教職員を中心に組織された情報機器活用推進委員会などを活用しつつ、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指していく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 校舎改築事業	4108-010 西中学校 校舎改築事業	校舎の整備率	100%	R2
		屋内運動場の整備率	0%	R4
2 環境整備事業(朝日小学校、 南中学校、御殿場小学校)	4106-020 小学校環 境整備事業 4106-030 中学校環 境整備事業	各校の施設整備率	朝日小 100%	R2
			南中 100%	R2
			御殿場小 0%	R5
3 ICTを活用した教育の推進と機 器の整備	4108-070 教育ICT環 境整備事業	大型提示装置が設置されている普 通教室数÷全普通教室数×100	100%	100%

■主要施策（7） 学校給食の充実

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

地場産品の利用促進は、御殿場コシヒカリ・牛乳・大豆などの食材活用に努めた。  
 御殿場コシヒカリの米粉を使用しアレルギー特定原材料7品目を使用しない『ごてんばこめこカレー』を2回、『ごてんばこめこハヤシ』を1回提供した。  
 献立の工夫や『給食だより』の発行、『給食献立表』のホームページへの掲載等を実施した。  
 西センターは、大規模改修による整備事業を実施することに決定した。  
 運営委員会では給食運営等について協議した。  
 栄養士・調理師・配膳員を対象とした衛生講習会を開催した。  
 物資納入業者の選定や研修の徹底、作業の安全指導や事故防止の徹底、施設点検を実施した。  
 令和元年10月から学校給食費の改定と、保護者負担軽減を図る子育て支援策として、学校給食費1/4助成事業を実施している。

【結果・成果】

『ごてんばこめこカレー』『ごてんばこめこハヤシ』の提供により、普段食物アレルギー等で給食を食べられない児童生徒を含む市内全校の児童生徒に同じ献立を提供し給食の楽しさを実感してもらった。  
 『給食だより』内に献立の一部を紹介しており反響をいただいている。  
 毎日の給食写真もホームページへ掲載し献立表と共に実際の安全安心な給食を見てもらうことができる。  
 衛生講習会を開催し、物資納入業者選定や研修の徹底は図られた。作業の安全指導や事故防止の徹底も確実に実施した。

【課題】

地場産品の利用促進率の向上及び食物アレルギー対応献立の提供回数や種類の増加の検討が必要である。

【今後の対応】

西センター整備については、大規模改修整備を、令和3年度から事業を進めていく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 地場産品の利用促進		地場産品の利用率	58.2%	45%(R4)
2 給食だより・給食献立表の発行		『給食だより』、『給食献立表』の発行の回数	月1回	月1回
3 安全・安心な学校給食の提供	4107-010 学校給食センター施設改修事業	施設改修事業進捗率	0%	100%(R6)
		学校給食センター運営委員会の開催回数	2回	2回
		衛生講習会等の開催回数	2回	4回
		施設点検の実施回数・修繕状況	点検計画により実施	点検計画により実施

- 主要施策（８） 高等教育等の支援の推進
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

**【実施内容】**

該当なし

**【結果・成果】**

該当なし

**【課題】**

該当なし

**【今後の対応】**

要望があった場合、対応する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 魅力ある高等教育・学術の支援				

■主要施策（9） 家庭教育力、地域教育力の向上

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

家庭教育・地域教育の充実を図るための事業を実施した。

【結果・成果】

家庭教育学級を24学級で開催するとともに、運営委員に対する研修を行った。  
また、各小中学校の入学説明会時に子育て学習講座を行った。  
放課後子ども教室は8小学校区、8教室で実施。

【課題】

家庭と地域、それぞれの教育力向上のため様々なアプローチが必要である。  
また、放課後子ども教室では指導者の確保が課題となっている。

【今後の対応】

新型コロナウイルス感染症予防を講じながら、各種PR等事業の周知に努め、引き続き実施していく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 各種講座等の開催による家庭教育力の向上		子育て教室開催回数(回) 子育て教室参加人数(組)	8回／13 組	10回／20 組(R2)
		研修会、ふじざくら編集委員会開催回数(回)	7	9 (R2)
		研修会、ふじざくら編集委員会延べ参加者数(人)	273	500 (R2)
		子育て学習講座開催回数(回)	2	16 (R2)
2 放課後子ども教室等地域教育力の向上	2101-020 放課後子ども教室(放課後子どもプラン)推進事業	保護者アンケートで「お子さんは喜んで教室に参加したか」で「はい」と回答した保護者数÷アンケートに回答した保護者総数×100	97.4%	100% (R2)

■主要施策（10） 青少年の健全育成

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

地域で子ども達を見守るために補導活動を行った。

【結果・成果】

街頭補導や校区補導への補導委員の意識及び参加率は高く、青少年の健全な育成への積極的な声掛けをしていただいている。

【課題】

近年スマートフォンやSNSの普及などのライフスタイルの多様化等により、地域の子どもの状況が見えにくい中、声掛け運動や野外での体験活動など、実際にふれあい、お互いの顔の見えるような体験の場が必要である。

【今後の対応】

チャレンジ体験や中学生ボランティアなどの取り組みを工夫し、多様な体験の場の提供により、地域の青少年の健全育成を図る。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 補導、青少年相談等青少年センター事業の推進		補導出勤人数(人) 補導中の声掛け人数(人) 声掛け運動新規参加者(人)	385人 1,378人 151人	500人(R2) 2,000人(R2) 160人(R2)
2 青少年のための科学の祭典等体験の場の提供	4103-030 青少年のための科学の祭典事業	青少年チャレンジ体験事業:参加者・保護者アンケートで「参加して(参加させて)よかった・どちらかといえばよかった」と答えた参加者・保護者数÷アンケートに回答した参加者・保護者総数×100 青少年のための科学の祭典事業:入場者数(人) 青少年のための科学の祭典事業:参加者アンケートで「とても楽しかった・楽しかった」と答えた参加者数÷アンケートに回答した参加者総数×100	隔年開催事業のため、実績なし	-

## 重点施策 第2 生涯学習と地域活動の推進

- 主要施策（1） 学習機会の提供、学習成果の発信
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

### 【実施内容】

広く市民が学習に取り組めるよう、市民大学など市民のニーズに沿った各種講座を実施した。市民大学を県民カレッジ連携講座として登録し、更なる学習へのつながりを図った。

### 【結果・成果】

市民大学等の各種講座を開催し、市民自らが学び合い、教え合う機会を提供するとともに、講師講演料等のコストダウンを図った。

### 【課題】

生涯に渡り学習活動に取り組む人を増やすためのきっかけ作りを行う必要がある。

### 【今後の対応】

新型コロナウイルス感染症防止策を講じながら、学習のきっかけ作りやPRを積極的に行い、その底辺を広げる。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 市民大学等学習機会の提供		市民大学講座延べ参加者数(人)	215人	400人 (R2)
		しずおか県民カレッジ連携講座数 (講座)	4回	4回 (R2)
		生涯学習情報「みちしるべ」 発行回数(回)	2回	3回 (R2)
2 ごてんばDONDON等学習成果 の発信(隔年実施)		ごてんばDONDON入場者数	中止	—
		ごてんばDONDON参加団体数 (展示)	中止	—

- 主要施策（２） 地域づくり活動の支援
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

**【実施内容】**

各地区地域づくり活動の活性化支援のため、講座等を開催した。

**【結果・成果】**

新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、各行政区の地域づくり活動主事を対象に、相互の連携を図り、各々の活動活性化のため、主事連絡会を開催した。  
また、その活動に資するため、学習講座等を開催した。

**【課題】**

各区の行事等や仕事が多忙等の理由により、参加率が伸び悩む場合がある。

**【今後の対応】**

引き続き新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、各主事の活動の参考になり、また意欲を持って活動に取り組めるような連絡会及び講座となるよう工夫して実施する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 地域づくり活動にかかる人材育成		地域づくり活動主事連絡会開催回数(回)	4回	5回 (R2)
2 地域づくり活動学習講座の開催		地域づくり活動学習講座等出席者数(人)	66人	60人 (R2)

■主要施策（3） 社会教育関係団体等の活動支援

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

市民自らが生涯に渡って学び教え合うことを目的とした、生涯学習ボランティアセンターの「ひろがり学習塾」に対し、PRや活動に対する支援を行った。

その他、生涯学習奨励事業交付金や教育委員会後援名義使用の承認などにより、それぞれの団体の活動を支援した。

また、生涯学習の拠点となる「富士山市民のサロンけやきかん」の開館に向けて準備を進めた。

【結果・成果】

各団体が独自の活動を活発に行っている。

【課題】

ボランティアセンターの登録講師については、若手の後継者育成が必要である。

【今後の対応】

情報提供や連携及び学習のきっかけ作りなどの支援を行い、底辺を広げていく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 社会教育関係団体の育成		後援名義申請の承認数(件)	35件	100件 (R2)
2 生涯学習に取り組む団体の支援		ひろがり学習塾開講数(教室)	32教室	40教室 (R2)

■主要施策（４） 図書館機能の充実  
 ■達成度 B  
 ■今後の方向性 継続

【実施内容】

蔵書については、利用者ニーズや社会的動静を反映させ選書を行い計画どおり購入できた。  
 調査研究事業では地方史研究論文の審査を行った。  
 新図書館構想については、令和元年度に引き続き新図書館等整備基本構想策定懇話会を2回開催し、パブリックコメントを実施した上で「御殿場市立図書館等整備基本構想」を策定した。

【結果・成果】

蔵書購入は計画通り実施できた。「御殿場市立図書館等整備基本構想」の策定。

【課題】

コロナ禍の図書館のあり方についての検討。入館者がここ数年減少している。講座の参加人数が定員割れの傾向にある。閉架書庫の容量不足。施設の老朽化。

【今後の対応】

コロナウィルス感染症の状況に応じてサービス提供・利用制限を実施する。  
 より魅力的なサービスや展示、イベントの開催について、委託会社と共に工夫を凝らして実施していく。  
 メディア媒体を使った情報発信を更に進め、PRを強化することで、来館・利用の増加を目指す。  
 講座については、魅力的な題材の採用と更なるPRの強化を図ることで、受講者の増加を目指す。  
 新図書館等整備基本構想に基づき、新図書館整備事業を推進する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 蔵書と充実と読書の推進	4204-010 子ども読書活動推進 事業 4204-020 図書館図書整備事 業	蔵書購入冊数(冊)	6,098冊	6,000冊 (R2)
		視聴覚資料購入点数(点)	57点	50点 (R2)
		図書館まつりウイーク入場者数 (人)	3,820人	2,200人 (R2)
		各種講座の参加人数(人)	18人	80人 (R2)
2 各種サービスの充実		図書館資料の相談件数(件)	3,556人	6,000人 (R2)
		予約・リクエスト件数(内 ネット予 約件数)(件)	5,746件 (3,221 件)	8,000件 (5,000 件) (R2)
		リサイクルボックス提供冊数(冊)	4,574冊	4,500冊 (R2)
		移動図書館車の運行(日)	175日	196日 (R2)
		視聴覚コーナーの利用件数(件)	中止	-
3 ボランティア及び近隣図書館・ 学校図書館との連携		学校図書館・ボランティア合同連 絡会の開催(回)	1回	1回 (R2)
		広域利用者(人)	2,610人	4,500人 (R2)
		相互貸借(合計件数)	1,327件	1,500件 (R2)
4 調査研究事業の実施		地方史研究御殿場の応募件数 (件)	-	-
		デジタル写真情報の利用件数 (件)	7件	10件 (R2)
5 図書館整備基本構想の策定	4204-030 図書館等整備事業	図書館等整備構基本想策定事業 達成率(%)	100%	100% (R2)

## 重点施策 第3 芸術・文化活動機会の振興

### ■主要施策（1） 芸術・文化活動機会の充実

■達成度 B

■今後の方向性 継続

#### 【実施内容】

各文化施設の自主事業は幅広いジャンルで実施した。  
 ごてんば市民芸術祭を10月から2月にかけて実施した。

#### 【結果・成果】

市民芸術祭は、美術幼少年展以外は、10月から11月に集約して実施した。新型コロナウイルス感染防止策を講じて、展示10部門、ステージ4部門の事業を実施した。  
 市民会館カルチャー教室では、コロナ禍であったものの、8,393人が参加した。

#### 【課題】

市民芸術祭については、参加者の固定化、高齢化が見られる催しもあり、引き続き積極的なPRを行い、参加者、観客の増加・多様化を図る必要がある。

#### 【今後の対応】

市民の芸術・文化活動の発表の場である市民芸術祭については、新たな参加者、特に若い世代へのアプローチを継続して実施する。

コロナ禍において、中止ありきではなく新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、どのような形で開催できるか方法を模索しながら芸術・文化活動を行う。国や県の動きを注視し、指示があった場合には迅速に対応する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 芸術・文化に関する鑑賞機会の充実		市民会館の自主文化事業の開催数(件)	7	15 (R2)
		東山旧岸邸の自主文化事業の開催数(件)	4	7 (R2)
2 芸術・文化活動の創作や発表の機会の充実		市民芸術祭展示部門の部門数・出品数	10部門 1,026点	10部門 2,000点 (R2)
		市民芸術祭ステージ部門の部門数・出演者数	4部門 364人	9部門 1,700人 (R2)
		市民会館カルチャー教室の参加者総数(人)	8,393人	12,000 (R2)
	4301-010 富士山の麓で歌う第九演奏会事業	富士山の麓で歌う第九演奏会の開催	開催なし	実施 (H30)
3 次世代の担い手対策の充実		文化少年団文化体験教室の参加者数(人)	開催なし	750 (R2)
		文化芸術賞賜金交付数(件)	0	3 (R2)

■主要施策（２） 芸術・文化活動体制の強化

■達成度 B

■今後の方向性 継続

#### 【実施内容】

文化活動団体の連携を高め、活動の活性化と拡大を図るために文化協会に補助を行った。

#### 【結果・成果】

文化協会には幅広いジャンルの139団体が加盟しており、市と共に市民芸術祭を開催したほか、会報誌の発行を行った。地域や団体に向けた出前講座では、器楽、お琴、民謡、日舞、民踊、華道、着付け等を実施した。

#### 【課題】

文化協会に加盟する団体の高齢化が進んでおり、団体の減少や、各事業の運営が困難となる恐れがある。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、練習や発表の場が減少し、団体の活動機会が失われている。

#### 【今後の対応】

文化協会について、コミュニティFMなど様々なメディアに露出する機会を増やし、若い世代へ周知をする。新型コロナウイルス感染症防止策を講じながら、地元企業や市と連携し、文化活動団体の活動機会を確保する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 活動団体の体制強化		文化協会加盟団体数(団体)	139	142 (R2)
2 地域及び企業、他分野との連携		文化協会会員による出前講座の開催	実施	実施 (R2)
		地元企業や団体等との共催による文化事業の開催	実施	実施 (R2)

■主要施策（3） 芸術・文化活動基盤の確保

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

市民会館・東山旧岸邸ともに、指定管理者と連携し、修繕・補修を実施した。市民会館については、会議棟の避難器具、小ホール舞台バック幕の昇降装置、スプリンクラー等の修繕を実施した。東山旧岸邸については、庭園の苔の張替え等の修繕を実施した。

【結果・成果】

市民会館・東山旧岸邸ともに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い臨時休館や利用制限を行ったため、前年度と比べ利用者が大幅に減少した。

市民会館は約10万人、東山旧岸邸は約14,000人、前年度を下回った。

【課題】

両施設とも経年劣化による要修繕箇所、老朽化した備品等が存在する。  
新型コロナウイルスの感染拡大への対応が発生している。

【今後の対応】

モニタリングを継続的に実施し、指定管理者との連携を密にするとともに、利用者の安全を確保するため、計画的な修繕、備品の更新等を行っていく。

文化施設において、新型コロナウイルス感染拡大防止を図るとともに、国・県の動向を注視しながら円滑な運営をする。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 文化施設の環境整備		市民会館の修繕実施件数	28	30 (R2)
		東山旧岸邸の修繕実施件数	18	10 (R2)
2 文化施設の有効活用		市民会館利用者数(人)	59,768	185,000 (R2)
		東山旧岸邸利用者数(人)	16,317	30,000 (R2)
		利用者アンケートの実施	実施	実施 (R2)
3 文化施設の施設管理者との連携強化		モニタリングの実施	実施	実施 (R2)

■主要施策（４） 芸術・文化に関する情報の発信

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

ごてんば市民芸術祭、各文化施設の利用案内や自主事業・教室等について、市広報紙、コミュニティFM、民間情報紙等をはじめ、ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等を活用して情報発信を行った。

【結果・成果】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、市民芸術祭の総入場者数及び各種教室やイベントへの参加者が、前年に比べ減少した。

【課題】

イベントの開催や施設利用の情報を取得する手段が多様化しており、従来型の情報発信だけではすべての世代に情報が浸透しない。

【今後の対応】

広報ごてんば、ローカル紙等の従来型の情報発信とICTを活用した情報発信を組み合わせ、幅広く且つリアルタイムで効果的な情報提供に努める。利用者が安心して利用できるように、必要な情報を迅速に発信する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 芸術・文化活動に関する情報提供と情報発信		市広報紙、コミュニティFM、地域情報誌等での情報発信	実施	実施 (R2)
2 ICTを活用した情報発信と利便性の向上		インターネット回線を利用し利用予約 (市民会館)	実施	実施 (R2)
		ホームページやSNSでの情報発信	実施	実施 (R2)

## 重点施策 第4 歴史と文化の継承

- 主要施策（1） 歴史と文化の調査・研究と支援
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

### 【実施内容】

文化庁、県文化財課の指導助言を受けながら、国・県指定文化財、国登録有形文化財、埋蔵文化財の適切な管理と調査を行った。市指定文化財及び未指定の多種多様な文化財について、市文化財審議会委員等の指導助言を受けながら保護・継承に努め、その活用を図るため、各種の調査や文化財の保護、啓発活動を行った。

神社棟札調査に関しては、宮司や氏子会の理解と協力のもと、市文化財審議会委員の尽力により富士岡地区の報告書を刊行した。

### 【結果・成果】

8月には、YMCA東山荘の2棟の建物が登録有形文化財となり、3月には、阿部雲気流博物館資料が市指定文化財として新規指定された。また、神社棟札調査については、富士岡地区の調査報告書の編集、発刊を行った。

### 【課題】

文化財を取り巻く情勢は大きく変化しており、国の方針も従来からの保存・公開は当然のことながら、活用に重点が置かれるようになった。新たな局面を迎えた文化財行政に対応すべく、職員のスキルアップや対応可能な職員の養成が必要である。また、激甚化する自然災害や老朽化による経年劣化が文化財に及ぼす影響も年々増加しており、対応に苦慮している。

### 【今後の対応】

新たな局面を迎えた文化財行政に対し、県等が主催する研修会に職員を積極的に出席させるなど職員のスキルアップを図ると共に、近隣市町の文化財所管課との連携を強化していく。

東山旧岸邸について、登録有形文化財の具申を行ったので、今後も引き続き登録を目指していく。また、令和3年度から4ヶ年計画で静岡県富士山世界遺産センター、裾野市と共同で実施する、富士山巡礼路須山口・御殿場口登山道調査に対応する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 文化財保護の啓発		文化財審議会開催数(回)	4	4 (R2)
		文化財防火デーに関する事業の実施	実施	実施 (R2)
2 指定・登録文化財の保護と活用		補助事業の件数	1	1 (R2)
		市費負担による天然記念物等の現況調査の件数	1	1 (R2)
		市費負担による説明版の設置・修繕の件数	1	1 (R2)
		指定・登録文化財にかかるマスコミ取材(露出)件数(件)	14	5 (R2)
3 埋蔵文化財の調査と保護		埋蔵文化財調査件数(本調査)	0	1 (R2)
		埋蔵文化財調査件数(確認調査)	2	3 (R2)
		埋蔵文化財調査件数(工事立会)	6	5 (R2)
4 神社棟札調査の継続		(地区ごとの)調査の進捗率	富士岡	100%
			100%	(R2)

■主要施策（２） 文化財等の公開・展示と活用

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

阿部雲気流博物館資料については、富士山樹空の森天空シアターの常設展示において、立体写真箱をはじめとする資料を継続して展示した。また、御殿場小学校3年生を対象に、民俗資料の貸出及び出前講座を実施した。市役所HP内において、デジタルミュージアムを引き続き公開した。

【結果・成果】

市内にある各種文化財等について、市民大学との連携で市内の歴史や文化財に関わる内容の講座を組み込むなど、啓発活動等を行い、市内外に御殿場市の歴史及び文化財についての認識が深まるよう努めた。また、デジタルミュージアム「御殿場資料館」について、掲載情報を追加した。

【課題】

郷土資料館が整備されるまでの間、老朽化している民俗資料収蔵庫内の資料の収蔵方法や公開活用について検討し、民俗資料等の寄贈資料のうち未整理のものについて、収蔵台帳の作成等の整理作業を進める必要がある。

【今後の対応】

民俗資料収蔵庫内資料の整理や活用について、引き続き対応、検討する。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 阿部雲気流博物館資料の整備・活用		阿部雲気流博物館資料に関わる講義、講演の回数、展示状況	0	1 (R2)
2 文化財に親しむ市民の拡大		文化財の企画展の実施回数	1	1 (R2)
		文化財講座・講演等の実施回数及び受講人数	4回/130人	2回/250人 (R2)
		デジタルミュージアム「御殿場資料館」HPの情報更新の件数	5	2件以上 (R2)

■主要施策（3） 世界遺産富士山の保全と調査・研究

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

富士山のハイキングコースを所管する観光交流課と連携し、世界遺産富士山(国特別名勝及び史跡)の現状把握を行った。令和3年度から実施予定である県富士山世界遺産センター、裾野市、との三者共同の富士山巡礼路須山口・御殿場口登山道調査に向けて、情報の収集整理、県富士山世界遺産センターとの情報交換を行った。

【結果・成果】

コロナ禍において登山道及び上方のハイキングコースが閉鎖されたため、登下山道のパトロールは実施しなかった。

巡礼路調査に向けて、県富士山世界遺産センターとの間で調査対象や調査の進め方について事前調整を進めることができた。

【課題】

ユネスコから課題として提示されている巡礼路の調査について、県富士山世界遺産センター、裾野市と共同で調査を進めると共に、これら調査や啓発に対応できるよう職員の養成が必要である。

【今後の対応】

世界遺産富士山や文化財に関する知識を持つ職員を増やし、啓発のみならず現状把握や保全、調査研究を含めて複数の職員が対応できるよう取り組む。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 世界遺産富士山の保全と啓発		富士山体のパトロールの実施の有無	未実施	実施 (R2)
		富士山や世界遺産に関する啓発事業(講座、展示など)実施の有無	1	実施 (R2)
2 世界遺産富士山の保全・啓発に向けた活動の支援		外部団体等が実施する事業での世界遺産に関する講義・講演の実施回数	0	3 (R2)

■主要施策（４） 郷土資料館の整備

■達成度 B

■今後の方向性 継続

【実施内容】

図書館等整備基本構想策定に合わせて複合化する施設として、郷土資料館の整備基本構想を策定する。

【結果・成果】

図書館等整備基本構想策定と合わせて、郷土資料館の整備基本構想を策定した。

【課題】

資料館が整備されるまでの間、老朽化している民俗資料収蔵庫内の資料の収蔵方法や公開活用が課題である。

【今後の対応】

今後整備を進める新図書館において、資料館機能を盛り込むことを前提に調整を進める。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 郷土資料館の検討	4204-030 図書館等 整備・(仮称)富士山 市民のサロン整備事 業	文化財審議会の協力を得て研 究・検討し、提言をまとめる [進捗状況(%)]	70%	100% (R3)
2 民俗資料収蔵庫内資料の整 理・活用		収蔵品貸出点数(点)	43	50 (R2)

## 重点施策 第5 多文化共生と国際交流の推進

■主要施策（1） 多文化共生の推進

■達成度 B

■今後の方向性 継続

### 【実施内容】

ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語の適応指導教室指導員を各校へ派遣した。

### 【結果・成果】

指導員を派遣し、外国籍児童生徒の日本語指導や、円滑な学校生活を送ることができるよう、学校からの配布物等の翻訳作業や、保護者面談時の通訳等、保護者も含めた支援を実施しており、事業効果は非常に高い。

### 【課題】

外国籍の児童生徒が増えており、指導員がすべてに対応困難な状況にある。

中国語等の言語や、不登校傾向の外国籍児童生徒の対応など、多種多様な支援が必要となってきた。

### 【今後の対応】

指導員の派遣を通じて、今後も支援を継続していく。

	事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
			指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1	外国人児童生徒適応指導のための人員の配置		外国人適応指導教室指導員の配置人数(人)	3人	3人
2	外国人児童生徒の支援・指導の充実		外国人適応指導教室指導員の訪問学校数(指導の必要な学校数)	9校	/
3	多文化を理解する教育の推進		多文化理解教育を授業で取り上げている学校数(校)	16校	16校

- 主要施策（２） 国際化に対応できる人材の育成
- 達成度 B
- 今後の方向性 継続

**【実施内容】**

小学校3・4年生での外国語活動、5・6年生での外国語教科化が全面実施となり、指導体制強化のため、ALT（外国人英語指導者）を2人増員して12人配置した。

**【結果・成果】**

外国人（ALT）から英語を学ぶことで、児童生徒が英語の発音やリズムに慣れ、特に「聞く力」の学習成果が出ている。ALTとのコミュニケーションを通じて、異文化に触れたり、国際的な感覚を身につけたりする機会につながっている。

**【課題】**

授業の質に差が生じないよう、教職員やALTの資質向上が求められる。  
各校にALTを配置できるよう、段階的な増員が望ましいが、コロナ禍による人員面、財政面から困難な状況である。

**【今後の対応】**

小学校教員の外国語の授業力向上や、ALTの資質向上を目指し、研修の充実を図っていく。

事業内容	3ヶ年 実施計画事業	指標		
		指標名 (計算式)	実績値	目標値 (年度)
1 語学力・コミュニケーション能力等の向上	4103-010 外国人英語指導者配置事業	ALT(外国人英語指導者)の配置人数	12人	12人
		ALTによる授業時間／年間 (小学校3・4年生)	35時間	35時間
		〃 (小学校5・6年生)	70時間	70時間
		〃 (中学校1～3年生)	140時間	140時間
2 青少年海外教育交流事業の推進		市内中学生の海外派遣交流事業(回)		
3 ボランティアの充実		GIA国際交流フェアへの参加		
4 国際理解の推進		国際理解教育を授業で取り上げている学校数(校)	16校	16校

## その他の事業

### 項目（１） 御殿場市子ども条例行動計画に基づく活動等

■実施事業 御殿場市子ども条例行動計画に基づく活動等

■達成度 B

#### 【実施内容】

平成27年度に制定した御殿場市子ども条例に基づき、御殿場市教育委員会では、平成28年度に御殿場市子ども条例行動計画を策定している。

計画では、子どもの育成にかかわる関係者の行動指針と市の行動計画を定めていることから、市が当該計画に基づき事業を展開するのはもちろんのこと、関係者に対しての指針の周知や指針に基づく活動の実施を促していく必要がある。

#### 【結果・成果】

令和2年度は、御殿場西高校特進コース研究会活動への協力の一環として、条例及び行動計画の策定に携わった前教育長の勝又将雄先生を講師にお招きし、子ども条例及び行動計画に係る講話を実施していただくことで、次世代を担う人材に対して条例及び行動計画の理解を深める活動を行うことができた。

#### 【課題】

市による行動計画に基づく事業の実施を継続していくとともに、子ども育成の関係者に対する指針の周知や、指針に基づく行動を引き続き促していく必要がある。

#### 【今後の対応】

折に触れて、条例及び行動計画の周知や理解を深める活動の実施に努めるとともに、必要に応じて事業の実施状況の確認を行うことで、計画の実行性を高めていく。

## ◆「御殿場市教育委員会管理及び執行状況に関する懇話会」

### からの質疑・意見等

#### 大項目1 教育委員会の活動

##### <質疑> ○「教育委員会と首長との意見交換会の実施」について

総合教育会議の中で「教員の多忙化」をテーマに意見交換をしているが、どのような取組を行うことが話し合われたのか。

##### 教育委員会回答:

本来教職員がやるべき仕事、どちらでもよい仕事、やらなくてもよい仕事と整理をした上で、教職員以外がやるべき仕事については他に任せていけるようにと、財政が厳しい状況下にあるが、補助員の導入がなされる等の成果を得たと認識している。

#### 大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

質疑・意見等なし

#### 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

##### <質疑> ○今後の方向性を「拡大」と判定した事業について(1)

「確かな知性を育む教育」について、昨年度は新型コロナウイルスの影響等もあり、ICT環境の整備が急速に進んだが、その中において、これまでどのような課題が見つかり、それをどのように支援や改善等していくのか展望をお聞かせいただきたい。

##### 教育委員会回答:

文科省の新学習指導要領が始まったときは、主体的な深い学びを標榜してスタートしたが、GIGAスクール構想では、個別最適化された学びを行っていくことが示されている。

学校現場としては、1年で令和の日本型教育という形に変わってきたので、国の具体的な方針を整理しながらスタートしているが、全国の先進校の事例等を参考に、何事にも恐れずにタブレットを使っていこうという姿勢でやっている。

なお、今は学校現場の様々な立場の先生で構成された情報機器活用推進委員会で課題を洗い出している段階なので、今年度は失敗を恐れずに積極的に使っていこうという位置付けをしている。

##### <意見>

ICTを活用は、様々な可能性を持っており、今後のより良い活用が展開されると期待している。

ICTを活用することで効率的・様々なものが早くできる部分も多く素晴らしいと思うが、子ども達にとっては、効率的なものが全てではないと感じている。

一つのものにじっくりと取り組んだり向き合ったり考えたり、深く掘り下げる活動も有用と感じている。

ICTの良さを活用だけではなく、実際に体を使って体験して活動、その両方の良さを実現できるように取り組んでいただきたい。

**<質疑> ○今後の方向性を「拡大」と判定した事業について(2)**

「開かれた学校・魅力ある学校づくりの推進」について、コミュニティ・スクールの導入については、昨年度の令和元年度事業に対する懇話会でも説明があったと認識している。

令和2年度の事業では、中学校にCSディレクターを配置したとあるが、具体的にどのような取組をされたのか教えていただきたい。

**教育委員会回答:**

コミュニティ・スクールについては、学校を核にして地域を盛り上げる考え方と、地域の中の学校の役割を明確にして地域を盛り上げるという考え方がある。それぞれの学校の設置場所等の環境によっても、どのように地域連携を充実させていくのかは非常に重要なポイントであると考えている。

実施している中学校については、これまで支援する既存の団体があったので、その活動を母体として地域の方が中学校の体験学習的なものや環境整備を支援してくださっている。

コミュニティ・スクールというものは、こうした地域と学校の協力体制が、この制度により恒久的に続くようにというものであるので、先生や地域の方が変わっても引き継がれていくように、制度としてしっかり整理しながら進めていくことが最も大切である。

**<意見>**

良い取り組み例のある地域があると、他の地域の模範例となるので進めて頂きたい。

**<質疑> ○学校における地域文化の伝承について**

御殿場音頭について、心のゆとりの醸成のため。年間15分で構わないので、伝える機会を設けていただけないか。

**教育委員会回答:**

議会においてもやり取りをさせていただいたが、御殿場市の学校教育の進んでいく方向について、教育というものは、その地域を支える人間を育成することであると認識している。

ICT機器を使って個別最適化する学びも重要だが、皆と一緒に学んでいくという協働的な学びも大切である。

昨年度は、夏休み期間を短縮するような厳しい状況であったが、そのような状況下にあっても、可能な限りであるが体験活動や学年活動を行っていこうという方針で進めてきた。

地域の方が学校に入ってご支援いただくことに関して、感染拡大防止の観点から昨年度についてはご遠慮いただいたものの、コミュニティ・スクールの考え方と共通するところもあり、これからは積極的に地域で学校を支えて、学校が地域の活性化につながるような位置づけとなることを考えたときに、御殿場を発展させ、郷土愛を醸成することにもつながるので、学校の方にも改めて校長会等を通じて委員のご意見を伝えていきたい。

**<質疑> ○学校における部活動について**

スポーツ少年団の人数も年々減少しており、また野球をやっている子がやりたくても野球部がなくてできない環境にある学校もある。

部活動に関する先生方の負担は大変なものだと思うが、過去に経験していて教えることができる人間はいるので、そういった人を活用できる場を学校に作ってはどうか。

また、もっと子ども達が体を動かすことができる環境を整えるために、小中学校のグラウンド等をうまく開放してはどうか。

**教育委員会回答:**

昭和40年代後半ごろから現在の部活動の制度が定着してきたが、今は、新しい時代に入っていると認識している。義務教育の学校の教員は、全ての子ども達に運動させたいとの思いがある。そのため、御殿場市においては全員入部する体制を取っている。

文科省が2023年から部活動について大きく舵を切り、社会教育化を進めていくとの情報もある。首都圏などの例となるが、放課後に一斉に30分から1時間程度、基礎的な運動させ、それを部活動扱いとして、それ以後に好きな活動をしてほしいとしているところもある。

昔は学校の部活動に入るのが常識だったが、最近の子供はどの部活に入るという選択ではなく、部活に入らないでどのクラブに入るという事やどんな習い事をするといったように、小学校から中学校に上がる段階で、自分の進学する中学校の部活に選択肢を持たない子もでてきている。

2023年度を目安に部活動のあり方も大きく変わっていく見込みだが、公立学校においては家庭の経済状況の影響で送迎等ができずに、学校外の活動ができない子もいるので、そういった子ども達を取り残すことがないように、部活動のあり方については複数年をかけて検討していきたいと考えている。

**<意見> ○その他の事業について**

昨年度に御殿場西高校の研究活動の一環として、子ども条例行動計画の講話を実施頂いた。

生徒たちも、子ども条例というものが御殿場市にあって、社会の様々な立場の方々が皆で協力して子供たちの育成に関わっていこうという考え方があるということを初めて知り、本当に素晴らしいことだと感じたようである。

子ども条例のように、社会が子供たちの育成にかかわっているという取組みを、もう少し市民の皆さんに周知した方がいいとの意見を生徒も述べていた。なので、行動計画のような社会的な取組があるという事を周知して頂き、それによって御殿場市の教育が向上していくことにつながればと思う。

**教育委員会回答:**

子ども条例は教育委員会で作ったものだが、教育委員会としては、コマーシャルの機会を与えて頂き感謝している。

そもそも子どもというのは小中学校だけではないので、本来であれば教育委員会ではなく、子育て支援に関わる部署が策定すべきであるとの考え方もあったが、わざわざ教育という形をとり教育委員会で制定したもの。

いずれにしても、議会においては、最終的には子ども条例に則って実施していくとたびたび申し上げていることもあり、引き続き周知等に努めていきたい。

**<意見> ○生涯学習・文化活動機会について**

御殿場市では、市民大学や寿大学が開催されているが、そういったものは、お年寄りが元気で生きていけるために開催されていると認識している。

講座の中で弁護士から遺書の書き方を教えていただき驚いたが、そういったことを意識する機会を与えて頂いたと感謝している。

文化は長い年月をかけて醸成される。市民芸術祭という素晴らしい企画があるが、年寄りが楽しんで活動できる機会でもあるという事を承知していただきたい。

**教育委員会回答:**

お年寄りに限定したものは、寿大学のことであると思うが、市民大学は年齢に関係なく一生涯で学び続ける機会を提供するものである。例年応募が多く、毎年抽選となっている状況である。

市民芸術祭等に関連して、昨年度は新型コロナウイルスの影響により、中止となった文化事業も多くあるが、今年度はできる限り開催していきたいと考えているのでご協力をお願いしたい。

## ◆点検評価の総括

### 【大項目1】

「教育委員会の活動」の達成度は、10項目中A評価が2項目、B評価が4項目、C項目が4項目となり、「今後の方向性」は、全10項目が継続となった。

定例教育委員会等の会議の開催をホームページや同報無線で周知し、傍聴しやすい環境を確保するとともに、会議の結果についても公表するなど、情報公開や広報に努めた。

なお、新型コロナウイルスの影響により、教育委員の研修参加や学校訪問などの活動が軒並み中止となった影響で、教育委員の活動に関する達成度が低くなったが、オンラインによる研修会等も開催されるようになってきたので、そうした機会を活用していく。

### 【大項目2】

「教育委員会が管理・執行する事務」は、法令により教育委員会が執行することが定められている法定事務であることから、判定は行わず件数の表示とし、実績の数値を表記した。

今後も、法令・規則等に基づき適正に事務を執行していく。

### 【大項目3】

「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」は、教育振興基本計画に基づき令和2年度当初に定めた教育施策の基本方針の中で定めた重点施策に紐づく各主要施策を評価の対象とした。

点検評価にあたり、それぞれの主要施策を構成する主な事業について、客観的な達成状況を判断するための一つの項目として、事業に係る指標を定めるとともに、目標値と実績値の数値を示している。なお、教育分野の事業は、成果が現れるまでに時間を要するものも多く、また一概に数値では測りきれない事業も多々あるが、判断材料の一つとして活用することは有効であることから、数値による実績等を掲載をしているものである。

「評価結果」は、達成度B評価が26施策となった。「今後の方向性」は、拡大が2項目、継続が24項目となった。

なお、どの施策においても課題を見出していることから、評価結果についても課題・今後の対応に沿って、事業内容の検討を進めることにより、施策の更なる改善を図っていく。

### 【その他の事業】

その他の事業として、平成28年度に策定した御殿場市子ども条例行動計画に基づく活動等に関して評価を行っている。

計画では、子どもの育成にかかわる関係者の行動指針と市の行動計画を定めていることから、市が当該計画に基づく事業を展開するのはもちろんのこと、引き続き、関係者に対しての指針の周知や指針に基づく活動の実施を促すなど、計画の周知や裾野を広げていく活動を継続して実施していく。

**令和3年度**

**(令和2年度事業対象)**

**御殿場市教育委員会**

**自己点検・評価報告書**

**令和3年8月**

**御殿場市教育委員会**